

第26回五霞町青少年の主張大会

児童生徒が、日頃の考えや思いなどを力強く主張発表

11月4日、中央公民館講堂において、第26回五霞町青少年の主張大会が開催されました。

当日は、町長を始め町議会議員、教育委員、各小中学校PTA会長、民生委員、青少年相談員、子ども会育成指導者など約80名の来賓や発表者の保護者が出席するなか、小学生4名、中学生6名の10名の児童生徒が登壇し、日頃の考えや思いなどを力強く主張発表しました。

受賞者は以下のとおりです。

《受賞者名》（敬称略）

○五霞町青少年問題協議会長賞

五霞中学校2年

折原 希歩

○五霞町議会議長賞

五霞中学校1年

村瀬なつ子

○五霞町教育委員会教育長賞

五霞中学校2年

石川 礼桜

○青少年育成五霞町民会議会長賞

五霞東小学校6年

吉澤 柚華

○五霞町青少年相談員協議会長賞

五霞西小学校6年

山本 紗己

○優秀賞

五霞東小学校5年

竹内 颯

五霞西小学校5年

荒川恵里奈

五霞中学校1年

根本 彩花

五霞中学校3年

江澤璃梨愛

五霞中学校3年

小林 光幸

「短所」は武器だ

五霞中学校2年 折原 希歩



「ああ、また今日もこんな時間か。」

「明日学校だし、もう寝ないといけないのに。」

みなさんは自分のことが好きですか。自分が嫌い。少し前までの私は、そんな風によく思っていました。無自覚に自分を追い詰めてしまっていた原因は、

私のある「短所」が関係しているのかもしれない。

小さい頃から、私は俗に言う「完璧主義者」でした。苦手なことでも、中途半端は許せない。100パーセントの出来映えが一番良いに決まっている。

そんな風に物事を考えていました。小学生までは苦なこと

があつたら、なんとか満足のいく結果を残せるように、できる限りの時間をかけて、その問題に立ち向かっていました。ところが、中学校に入学後、衝撃を

受けたのは、小学校の頃とは比べものにならないほどの課題の量。夕暮れまで続く、部活動の練習。私の「完璧主義」な考え方は苦手を克服するために、睡眠時間を削らざるを得ない状況を作り出してしまいました。

「希歩ちゃん、すごいね。」

クラスメイトからの純粋な褒め言葉はいつしか、中学生になった私を無自覚に追い詰めていく言葉となっていました。

「つらい。」

私は、夜遅くまで「完璧」を追い求めることをやめられない私が、だんだん嫌いになっていきました。

そんな時、私はある道徳の授業「短所を武器とせよ」に出会いました。

「短所は長所に化ける。」

短所が長所に？考え方次第でそんなことができるの？授業後の私の頭の中に、鮮明に残ったのは、この言葉でした。

「短所を長所に。やってみよう。」

この出来事をきっかけに、私は「完璧主義者」としての考え方を改めるようになりました。

「完璧」を追い求めて頑張ることとは「何事にも手を抜かず、がんばることが出来る。」ことであり、一つ一つのこと丁寧に取

り組む自分をまず褒めてあげよう。そんな風に思うと、自然と気持ちが楽になっていくような気がしました。どうしてもできない問題には、周りにいる家族や友人に助けを求めることを覚ええました。一人ではできないことも、周りの人の力を借りて取り組むことができること、自分一人の力以上の結果を出すこともありました。一人で抱え込まず、周りの人と助け合いながら物事に取り組んでいくことの大切さを知ると共に、力を合わせて頑張ることが出来る自分を誇らしく思うようになりました。

優柔不断、意地っ張り、短気。人間に「短所」なんてあつて当たり前。今の私はこんな風に考えています。

「だからこそ、やれること、考えられることが無尽蔵にある。」

こんな言葉があつた時の道徳の授業の文章に書かれていました。短所があるからやれること、考えられることがある。むしろ短所が自分の長所、武器となることができるはず。あの日の道徳の授業は私にたくさんのことを教えてくれました。

みなさんは、自分のことが好きですか。今の私は自信をもつて言えます。

私は、「私が大好き」です。